

第2部  
基本構想

# 1. まちづくりの 理念と将来像



市民、地域、企業、行政の協働によって生涯住み続けたいまちをめざし、湖南市の将来像（10年後）を、以下のように定めます。

## まちの将来像

**ずっとここに暮らしたい！**  
**みんなで創ろう**  
**笑顔つなぐ・つながる湖南**

## まちの将来像

湖南市が掲げるまちの将来像「ずっとここに暮らしたい！みんなで創ろう笑顔つなぐ・つながる湖南」の実現に向けて、本計画に定める政策を実施することによって、10年後に到達しているまちの姿をここに描きます。

## KGI (重要目標達成指標)

10年後の目標

**住民幸福度 7.2 点**  
**(基準値※ 7.0 点)**

※基準値は市民意向調査における住民幸福度

## 湖南市市民憲章 まちづくりの5つの理念

- ◆ 美しい水と緑を大切に、自然と調和したまちをつくります。
- ◆ たがいの人権を認めあい、思いやりのあるまちをつくります。
- ◆ 子どもが健やかに育ち、障がい者や老人をはじめ、だれもが安心して暮らせるまちをつくります。
- ◆ ゆたかな歴史を重んじ、香り高い文化のまちをつくります。
- ◆ 社会の規律を守り、安全で住みよいまちをつくります。

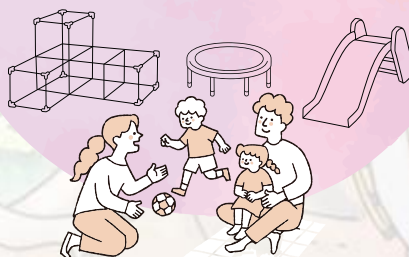
文化・芸術やスポーツなどさまざまなアクティビティを通じて仲間が集まり、読書や散歩など自由に時間を過ごせる多目的な空間がある



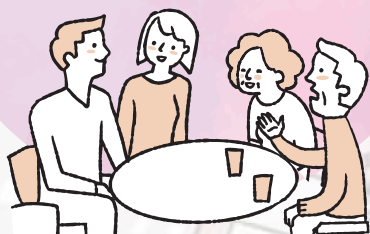
若者からシニアまで全世代が地域コミュニティで活躍できる機会・場があり、地域住民の交流が活発で地域づくりが継承されている



利用しやすく人が集い憩う快適な大規模公園、プロムナード、地域住民が使いやすく管理しやすい身近な公園が適切に配置されている



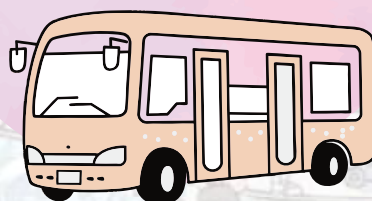
多様な背景を持っている市民みんながそれぞれの立場で社会に参加でき、だれもが気軽に相談できる窓口がある



学生もシニアもそれぞれの得意な分野を生かして協力しながら、学生が地域を笑顔にするまちづくり活動にチャレンジできる仕組みがある



3駅を中心としたコンパクトな市街地が形成され、鉄道、バス、自家用車の連携による交通ネットワークが確立している



# 1. まちづくりの 理念と将来像



## 湖南市って、こんなまち — 湖南市の特徴 —

湖南市は自然環境（野洲川、国の天然記念物「平松のウツクシマツ自生地」など）、歴史文化遺産（「湖南三山」など）が豊富なまちで、交通ネットワーク、工業団地の整備により発展してきました。外国人の居住割合は県内で最も高く、多様な文化が育まれています。また、湖南市は災害が比較的少ないため、安心して暮らすことができます。

### 自然豊かな広域交流のまち

南北に阿星山系と岩根山系、中央には琵琶湖に注ぐ県内最長河川の野洲川、美しい田園風景が広がる自然豊かなまち。

大阪、名古屋から100km圏内にあり、国道1号沿いで、栗東・栗東湖南・竜王IC、国道8号にもアクセスが良い広域交流拠点のまち。



### 歴史・伝統文化が豊かなまち

東海道石部宿、湖南三山など有形の歴史文化遺産、滋賀の伝統工芸品にもなっている近江下田焼、酒蔵などがある伝統文化のまち。



### ものづくり（工業）のまち

県内最大級の湖南工業団地をはじめ、5箇所の工業団地があるものづくりのまち。



## 多文化共生のまち

外国人の居住割合が県内1位の多文化共生のまち。



## 障がいのある人と共に歩む福祉のまち

「社会福祉の父」糸賀一雄らが創設した近江学園があり、全国に先駆けて構築した発達支援システムを持つ福祉のまち。



## 脱炭素に取り組むまち

「SDGs 未来都市」「脱炭素先行地域」に選定され、自治体地域新電力会社であるこなんウルトラパワー株式会社を中心に先行的な脱炭素政策に取り組むまち。



## 市民が自分たちでつくるまち

市内に7箇所の地域まちづくり協議会があり、自分たちのまちは自分たちでつくる基本理念に基づく活動を行うまち。



# まちづくりの目標・めざすまちの方向性・重要な政策テーマ

まちづくりの目標

みんなで共に進める  
仕組みをつくろう

～小規模多機能自治の  
まちづくり～

うるおいのある  
まちをつくろう

～自然を生き、自然と  
共生するまちづくり～

活気あるまちを  
つくろう

～人と産業が集い、公共交通  
でつながるまちづくり～

めざすまちの方向性

・オール市民で自分たちのまち湖南を創造するまち

・多様な人、だれもが参画できるまち

・若者が持続可能な社会の創り手として活躍できるまち

⋮

・先行的な政策で脱炭素に取り組むまち

・身近に緑とふれあえるまち

⋮

・公共交通・都市計画・インフラ整備に長期的な視野を持つ住みやすいまち

・企業が進出したいくなる、異業種交流ができるまち

⋮

重要な政策テーマ

湖南市版  
小規模多機能自治

多文化共生

人財育成

こなんSDGs  
未来都市の実現・  
脱炭素化

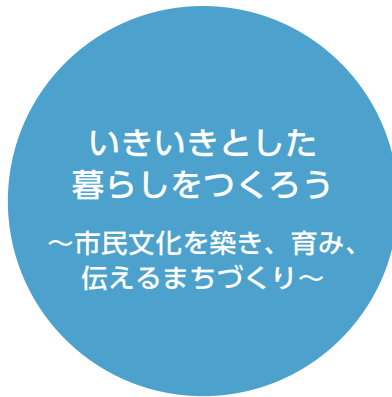
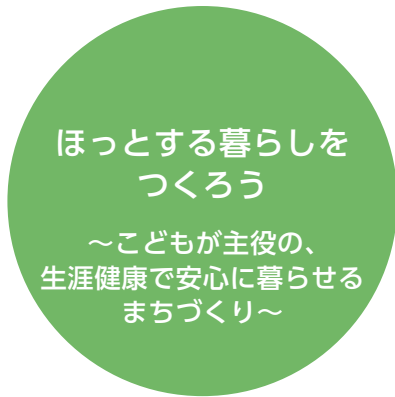
公園活性化

公共交通

都市計画

企業誘致

産学官連携



- ・安心して子育てができるまち

- ・だれもが健康でいきいきとした楽しむ人生を送れる健康長寿のまち

- ・発達支援システムが充実しているまち

- ・防災減災を市民と共に進める災害に強いまち

⋮

こどもまんなか

健康福祉

防災減災

- ・学校と地域が協働し豊かな人間性と地域への愛着を育むまち

- ・地域に根付く歴史や文化が次の世代に継承されるまち

⋮

地域協働

生涯学習・生涯スポーツ

文化創造

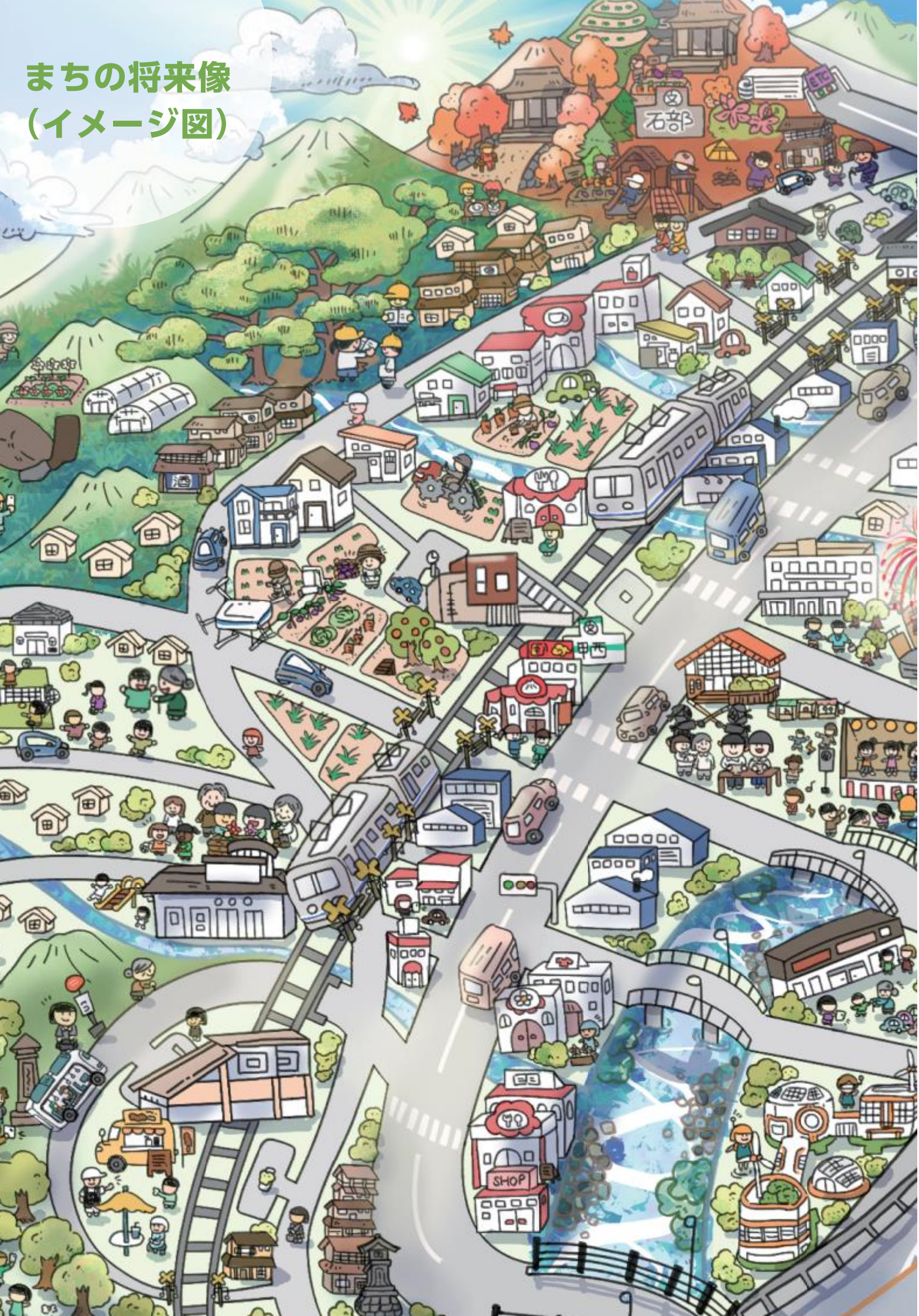
- ・デジタル技術の導入による行政事務の効率化や施設の最適化、利便性が高くきめ細かな行政サービスが提供されるまち

⋮

行財政改革

広域行政

# まちの将来像 (イメージ図)





## 2. まちづくりの 目標



### まちづくりの目標 1

## みんなで共に進める 仕組みをつくろう

### ～小規模多機能自治のまちづくり～

少子高齢化と人口減少が加速する中で、ライフスタイルや働き方など、私たちの価値観はますます多様化しています。こうした時代背景を踏まえ、地域特性と国際的な視座を融合させた地域づくりが、今まさに求められています。また、人権の尊重を基盤とし、多様な人々が互いの存在を認め合い、支えあいながら共に生きるという考え方は、まちづくりの大切な理念です。

湖南省は、20～30歳代の若年層が多く、さらに4,000人を超える外国人市民が居住しています。これまで、地域まちづくり協議会による地域住民主体のまちづくり活動や湖南省版小規模多機能自治（自分たちのまちは自分たちでつくるの基本理念のもと7つの地域まちづくり協議会を基礎として4箇所の中学校区単位で地域課題の解決や地域の支えあいを支援する体制や連携）を展開してきました。

社会環境の変化により、人々のつながりが希薄になりがちなか中でも、湖南省では若者が積極的にまちづくり活動に参加しています。彼らは将来のまちについて活発な意見交換を行い、地域に新しい活気をもたらしています。

湖南省では、市民の皆さんが互いに協力し、地域の美化や困っている人への支援に積極的に取り組んでおり、一人ひとりが助け合いの心を大切にする姿勢は、湖南省ならではのまちづくりを支える大きな強みとなっています。

市民と行政が協力してまちづくりを進めるには、仕組みをつくるだけでなく、人々とのつながりや話し合いを大切にすることが重要です。

夢ある未来へ！地域で支えあい、だれもが笑顔で暮らせる社会を実現するため、この先10年間で小規模多機能自治を進め、地域防災や地域福祉の強化など、重要な政策に地域と共に取り組んでいきます。

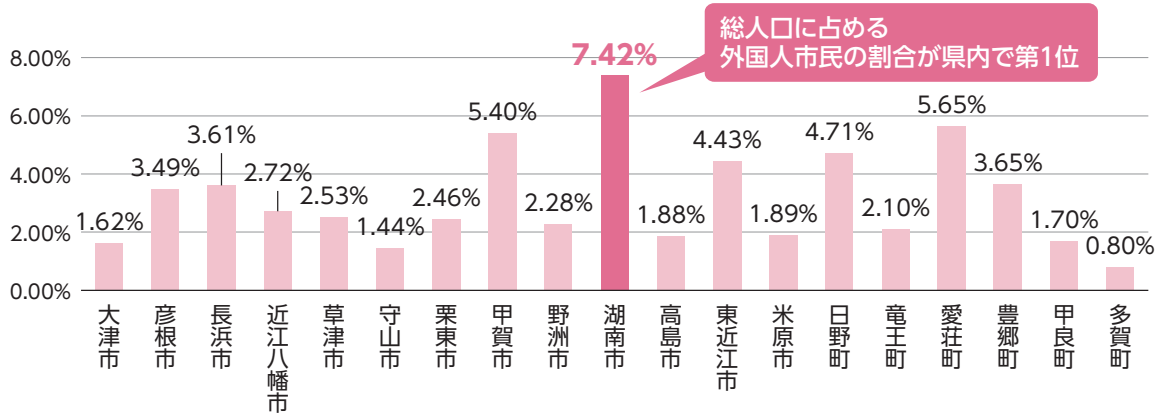
特に重視する政策として、①湖南省版小規模多機能自治、②多文化共生、③人財育成の3つを重要な政策テーマに据え、「オール市民で自分たちのまち湖南を創造するまち」「多様な人、だれもが参画できるまち」「若者が持続可能な社会の創り手として活躍できるまち」をめざすまちの方向性に掲げ、複数の行政分野や部局を越えて連携し、住民の視点に立った行政運営を進めていきます。



## ● めざすまちの方向性

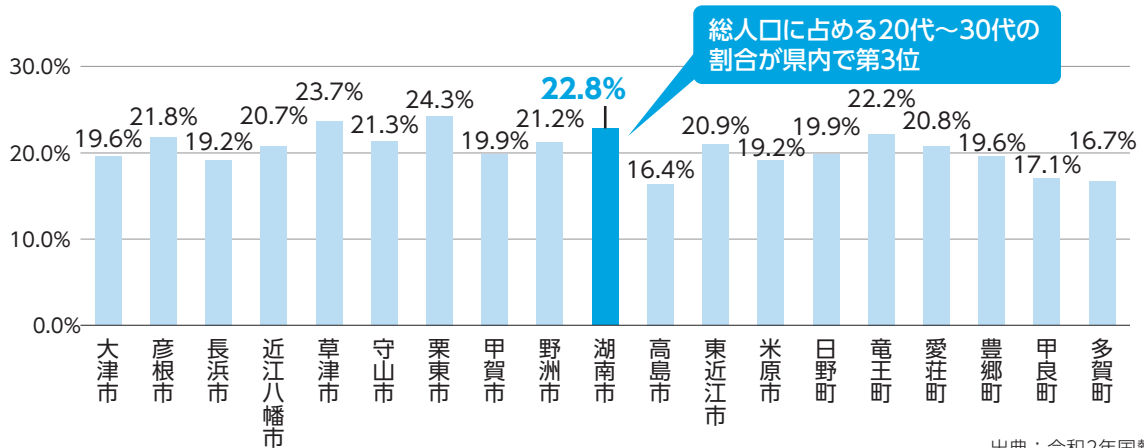
- ・オール市民で自分たちのまち湖南を創造するまち
- ・多様な人、だれもが参画できるまち
- ・若者が持続可能な社会の創り手として活躍できるまち

### ■ 市町別外国人人口の割合



※2024年（令和6年）12月31日現在  
出典：各市町住民基本台帳

### ■ 市町別若者（20～30代）人口の割合



出典：令和2年国勢調査



市民ワークショップで企画を話し合う中学生



ウツクシマツ絵本を制作したこなん  
SDGs カレッジローカリスト (右)



## ●重要な政策テーマ

### 政策テーマ1-1：湖南省版小規模多機能自治

#### ◆湖南省版小規模多機能自治の推進

湖南省では、自分たちのまちは自分たちでつくることを基本理念とした地域まちづくり協議会が主体となり、地域課題を自ら解決し、地域で支えあう仕組みを構築しています。行政は、市内4箇所の中学校区を生活圏域としてその取組をサポートする体制や連携の形を確立するため湖南省版小規模多機能自治（自分たちのまちは自分たちでつくるの基本理念のもと7つの地域まちづくり協議会を基礎として4箇所の中学校区単位で地域課題の解決や地域の支えあいを支援する体制や連携）を推進します。

#### ◆地域防災の推進

社会資本（上下水道、橋、庁舎をはじめとする公共施設など）の耐震化による防災力向上に加え、地域住民のコミュニティ力（自助、共助）の強化による地域防災力の向上をめざします。

向こう三軒両隣のコミュニケーション力の強化をはじめ、区・自治会で構成するふるさと防災チームの充実、4箇所の中学校区単位での広域防災手法の創出、消防団や防災士連絡会による専門部隊の体系化、消防署や災害対策本部、地区連絡所といった行政機能との連携強化に努め、市民全体で防災減災を実現できるよう推進します。



石部南学区まちづくり協議会 防災避難訓練



石部学区まちづくり協議会 まもりんピック



### ◆地域福祉の推進

地域には、さまざまな理由で生活に困っているかたがいます。少子高齢化や核家族化の進展により、人とのつながりが希薄になり、社会的孤立や生活困窮、ひきこもり、虐待、ヤングケアラーといった福祉課題が複雑化しています。

湖南省では4箇所の中学校区ごとに高齢者の総合相談窓口である地域包括支援センターおよび出産・子育てに関する総合相談窓口である子ども家庭総合センターを設置しており、住民に寄り添い身近な相談ができる体制づくりを進めています。

民生委員・児童委員や地域支えあい推進員、事業者が連携し、相談・サポート体制を構築するなど、困り事や悩み事を抱え込み、問題が深刻化する前に、身近に気軽に相談することができる安心な地域社会を形成します。

## 政策テーマ1-2：多文化共生

### ◆外国人市民の地域定着

湖南省の特徴の一つとして、多くの外国人市民が暮らしていることが挙げられます。さまざまなルーツがある外国人市民は、湖南省の経済・社会活動を担う地域社会の一員です。2027年（令和9年）6月までに施行される育成就労制度は、外国人市民が将来にわたって我が国に定住することが見込まれる制度です。受入れを行う事業者による新たな制度への適応が円滑になされ、人手不足の解消につながることを期待されます。

外国人市民にとっても暮らしやすく、活躍しやすい地域社会を形成するため、相互理解を深める異文化コミュニケーションなど湖南省がこれまで培ってきた多文化共生の取組を継続し、関係団体と連携しながら事業者や地域団体による外国人市民が地域社会に馴染みやすいよう支援する積極的な取組を促進し、行政サービスなど有益な情報が円滑に届くようにします。



湖南省立水戸小学校の日本語初期指導教室のさくら教室



### ◆生活支援の充実

日本人にとっては、ありふれた日常のサービスや情報であっても、外国人市民にとっては、言葉の壁などによって不便を強いられる場合があります。

湖南省からの行政情報の提供や窓口サービスなどにおいて外国語対応を充実させ、特に防災に関する情報は外国人市民にも正確、迅速に伝わるよう対応するなど、外国人市民が安心・快適に暮らせる地域社会を形成します。

また、日本語初期指導が必要な児童・生徒およびその保護者に対し、やさしい日本語からの学びの環境を整え、生活支援の充実に取り組みます。



多言語での窓口対応

## 政策テーマ1-3：人財育成

### ◆地域まちづくりの担い手の確保

地域住民の高齢化が進み、地域づくり活動の担い手が不足しています。また、コロナ禍の影響で地域の交流の機会が失われ、それらの活動の企画力や運営ノウハウも徐々に失われていくことが懸念されます。

NPO（まちづくりなどさまざまな分野で活動する民間非営利組織）などの中間支援組織と連携し、運営ノウハウに関する情報提供など人財育成（人を財産と捉え、社会の成長や発展に貢献するためになくてはならない能力や資質を磨いて育てること）に取り組みます。

また、学生など若者が地域活動に参画し、活躍できる機会が生まれるよう地域と若者がつながる場づくりに取り組みます。

### ◆多様な市民が参画する仕組みづくり

湖南省では、これまでも湖南省が開催する各種会議などに市民の参画を得てまちづくりを進めてきました。

人財登録制度の運用を通して、若者や外国人市民、企業などの活躍の場を広げ、そのノウハウをワークショップなどを通じてまちづくりに生かすことで、持続可能な地域社会を市民自らつくり上げるまちづくりを進めます。



大学生グループが市内の若者に、調理体験を通じて  
地場産品の魅力を伝えている様子

## 2. まちづくりの 目標



### まちづくりの目標 2

## うるおいのあるまちを つくろう

～自然を生かし、自然と共生するまちづくり～

地球温暖化は、今や全人類が直面している重要な課題です。近年では豪雨被害の頻発化や激甚化など、私たちの日常生活にその影響が現れています。

湖南省では、官民連携により自治体地域新電力会社であるこなんウルトラパワー株式会社を設立し、小売電力事業の収益をまちづくり事業などに活用してきました。また、経済・社会・環境の三側面を統合的に進める地域循環共生圏の実現をめざした取組が高く評価され、「SDGs未来都市」に選定されています。さらに、太陽光発電を活用したエネルギーの一括管理や、独立電力供給網（マイクログリッド）（地域や建物単位で電力の発電・供給・管理を行う小規模な電力網）の整備によって、自然エネルギー（太陽光・風力・地熱・中小水力・バイオマスなど、枯渇することなく持続的に利用することができるエネルギー）の自給自足を図ってきました。加えて、林業と障がいのある人の就労を掛け合わせた林福連携事業が国に評価され、脱炭素先行地域（地域の特性に合わせた温室効果ガスの削減目標に先行的に取り組む地域）にも選ばれています。

そして、多くの市民も、湖南省の将来の姿として自然がいっぱいのまちに希望を抱いていることから、環境や教育、福祉などの分野が連携し、自然の豊かさやありがたさを次の世代へと引き継いでいくことが大切です。

市内の個性的な公園やプロムナード、バイコロジーなどは、地域住民の日常に安らぎを提供すると共に、市外からの訪問者を惹きつける魅力的な空間となる可能性を秘めています。

一方で、住宅地開発に伴って作られた小規模な公園の中には、人口減少や少子高齢化により利用が少なくなり、維持管理が難しくなっている場所があり、これら既存の公園や空き地の有効活用、維持管理の効率化は社会的課題です。湖南省では、だれもが希望を持てるライフスタイルを育むため、10年後のニーズに応じた公園の再編と活性化を踏まえた施策に取り組んでいきます。

特に重視する政策として、①こなんSDGs未来都市の実現・脱炭素化、②公園活性化を重要な政策テーマに据え、「先行的な政策で脱炭素に取り組むまち」、「身近に緑とふれあえるまち」をめざすまちの方向性に掲げ、複数の行政分野や部局を越えて連携し、住民の視点に立った行政運営を進めていきます。



## ●めざすまちの方向性

- ・ 先行的な政策で脱炭素に取り組むまち
- ・ 身近に緑とふれあえるまち

2020年（令和2年）7月17日  
「SDGs未来都市」に選定（内閣府）



2022年（令和4年）11月1日  
「脱炭素先行地域」に選定（環境省）



脱炭素先行地域  
滋賀県湖南市



地域住民による公園整備（水戸学区）



まちづくりセンターに設置している太陽光パネル



憩いの場として注目されている森北公園



## ●重要な政策テーマ

### 政策テーマ2-1：こなんSDGs未来都市の実現・脱炭素化

#### ◆こなんSDGs未来都市の実現

湖南省では、官民が連携し、小売電力事業の収益を活用してまちづくり事業などに取り組むことを目的として自治体地域新電力会社であるこなんウルトラパワー株式会社を2016年（平成28年）に設立しました。

官民が連携し、太陽光発電など自然エネルギー導入プロジェクトの実施、省エネ関連サービスの提供、農林業や福祉と連携した自然エネルギーの活用に取り組み、地域内のエネルギーの循環による地域経済活性化のまちづくりを進めます。

#### ◆脱炭素の地域づくり

湖南省は、2020年度（令和2年度）にSDGs未来都市の選定都市として、脱炭素社会の実現に貢献するため、2050年（令和32年）までに市内のCO<sub>2</sub>排出量実質ゼロをめざすゼロカーボンシティへ挑戦することを宣言しています。また、官民連携での太陽光発電や蓄電池の導入によるエネルギーの一括管理や、林福連携事業（林業と障がいのある人の就労を掛け合わせた事業）が評価され、脱炭素先行地域（地域の特性に合わせた温室効果ガスの削減目標に取り組む地域）に選定されました。

湖南省の特性を生かしたエネルギーと経済の循環モデルの確立による持続的な脱炭素社会（温室効果ガスの排出を実質ゼロにする社会）の実現、公共施設や民間の施設（工場・事業所）、住宅への太陽光発電・蓄電池の導入促進などに取り組み、官民連携による脱炭素の地域づくりを進めます。

### 政策テーマ2-2：公園活性化

#### ◆魅力的で個性的な拠点となる公園の充実

市内には野洲川親水公園や森北公園、菩提寺運動広場などの自然豊かな大規模公園が各地にあります。市民はこれらの拠点的な公園を有効に活用し、集い、憩える空間の整備や子育てにやさしい公園の整備を求めています。

地域ごとに規模が大きな拠点的公園それぞれの特性を生かしながら、市民が公園内に気軽に立ち寄ってリフレッシュすることができる空間を整備し、魅力的で利用しやすい公園が多く市民に親しまれるまちづくりを進めます。



### ◆身近な公園の再編

市内には身近な小さな公園が多数ありますが、利用者が少ない、維持管理が不十分などの課題を抱えています。

市民に親しまれ、利用されている公園施設などの長寿命化や適切な更新を行うと共に、周辺住民や地域とのつながりを大切にしながら小規模で利用度が少ない公園の再編を実施するなど、市民の心と暮らしが豊かになる公園が身近にあるまちづくりを進めます。

### ◆自然環境・生態系の保全

湖南省は、野洲川や阿星山系・岩根山系の丘陵地など豊かな自然環境に恵まれています。また、特色ある自然資源として国の天然記念物「平松のウツクシマツ自生地」があります。

これらの豊かな自然環境および生態系を次世代に継承していくために、「平松のウツクシマツ自生地」を失わないよう保全し、また、地域や事業者と連携し森林や里山、農地、水辺をフィールドとする体験型の環境学習を通して、こどもから大人まで市民の環境保全意識の向上を図るなど、いつまでも自然と生き物が豊かなまちづくりを進めます。



平松のウツクシマツ自生地



ウツクシマツ絵本「ウツクシマツのキセキ」より

## 2. まちづくりの 目標



### まちづくりの目標 3

## 活気あるまちを つくろう

～人と産業が集い、公共交通でつながるまちづくり～

少子高齢化と人口減少は、社会全体に関わる問題で、特に公共交通網や地域経済に大きな影響を与えています。湖南省も例外ではなく、あらゆる世代の多くの市民が、通勤・通学や買い物などさまざまな目的で、JR草津線やコミュニティバスの利用にとっても不便を感じており、公共交通の利便性向上および新たな交通手段の検討が急務です。

一方で、国道1号の整備や名神高速道路栗東湖南ICの開設によって、湖南省の広域的な交通の利便性・重要性はますます高まっています。こうした恵まれた立地を生かすことで、地域産業や市民生活の活力をさらに高めることができます。

基幹産業であるものづくりを支え、事業を牽引してきた経営者や優れた技能を持つ職人などの豊かな知見と技術を持つ人財が豊富であることは、湖南省の大きな強みです。彼らが培ってきた知見やネットワークを駆使して、これらのさまざまな課題に向き合っていくことは、湖南省の未来を大きく変える可能性を秘めた希望へとつながっています。住民・企業・行政が手を取り合うことによって、新たな交通手段の導入も十分に可能性があります。

また、商業や農業、観光などの産業振興や空き家対策においても、住民・企業・行政が協働することで地域の課題解決や地域活性化につながる相乗効果が期待できるでしょう。

このように、湖南省では、一人ひとりの夢を叶えるライフスタイルを実現し、互いに共有しながら支えあう社会となるような10年後の未来を見据え、費用負担のあり方の検討を含めた公共交通事業計画の再編、人を育む産業振興、都市計画など、重要度と市民ニーズを踏まえた施策に取り組んでいきます。

特に重視する政策として、①公共交通、②都市計画、③企業誘致、④産学官連携の4つを重要な政策テーマに据え、「公共交通・都市計画・インフラ整備に長期的な視野を持つ住みやすいまち」、「企業が進出したくなる、異業種交流ができるまち」をめざすまちの方向性に掲げ、複数の行政分野や部局を越えて連携し、住民の視点に立った行政運営を進めていきます。



## ●めざすまちの方向性

- ・公共交通、都市計画、インフラ整備に長期的な視野を持つ住みやすいまち
- ・企業が進出したいくなる、異業種交流ができるまち

大阪、名古屋から100km圏内にあり、  
国道1号沿いで、栗東・栗東湖南・竜王IC、  
国道8号にもアクセスが良い



地域経済の自立度を表す指標である  
地域経済循環率は111.7%と、  
県内市町で7番目に高い（湖南市産業振興ビジョン）



県内最大級の湖南工業団地

製造品出荷額等は  
県内8位  
(2021年経済センサス)

運輸業・郵便業の  
純付加価値額は  
県内3位  
(2021年経済センサス)



市内を横断する国道1号



名神高速道路栗東湖南IC周辺の産業用地



## ●重要な政策テーマ

### 政策テーマ3-1：公共交通

#### ◆公共交通の見直し

だれもが公共サービスなど必要な場所に移動することができる移動の権利を保障するため、公共交通ネットワークを維持することが重要です。一方で、交通事業者に公共交通サービスを任せるだけでは、地域の公共交通の水準を確保することが困難な状況です。

関係主体の役割分担や費用負担のあり方を踏まえた地域公共交通計画へと見直しを行います。

J R草津線について、利用客増加策に取り組むと共に、関係団体などと連携しJ R西日本へ働きかけ、利便性の高いダイヤ編成の実現を推進します。

だれもが便利に移動できる交通環境の形成に向けて、コミュニティバスに加えてライドシェア（一般ドライバーが自家用車で乗客を有償で運ぶサービス）などの新しい交通手段の導入が求められています。デマンド型交通などコミュニティバス以外の移動手段の確保に取り組みます。

また、湖南省の地域特性に合致し地域に根差した交通手段の導入に向け、産学官の連携による社会実験・先導的モデル事業の実施などを検討します。

#### ◆バスの利便性向上

市内のコミュニティバス「めぐるくん」は石部駅・甲西駅・三雲駅などと接続しています。

通勤・通学を主たる利用者として位置づけ、鉄道などとの乗り継ぎやデジタル技術を導入した「めぐるくん」の現在位置情報の可視化などによる利便性の向上、利用実態やニーズに応じたバスルートの見直し、複数の事業者による役割分担など最適な運営主体の検討や利用者の確保、掘り起こしを検討し、利用しやすいバス交通の実現を図ります。



こにゃんバス



## 政策テーマ3-2：都市計画

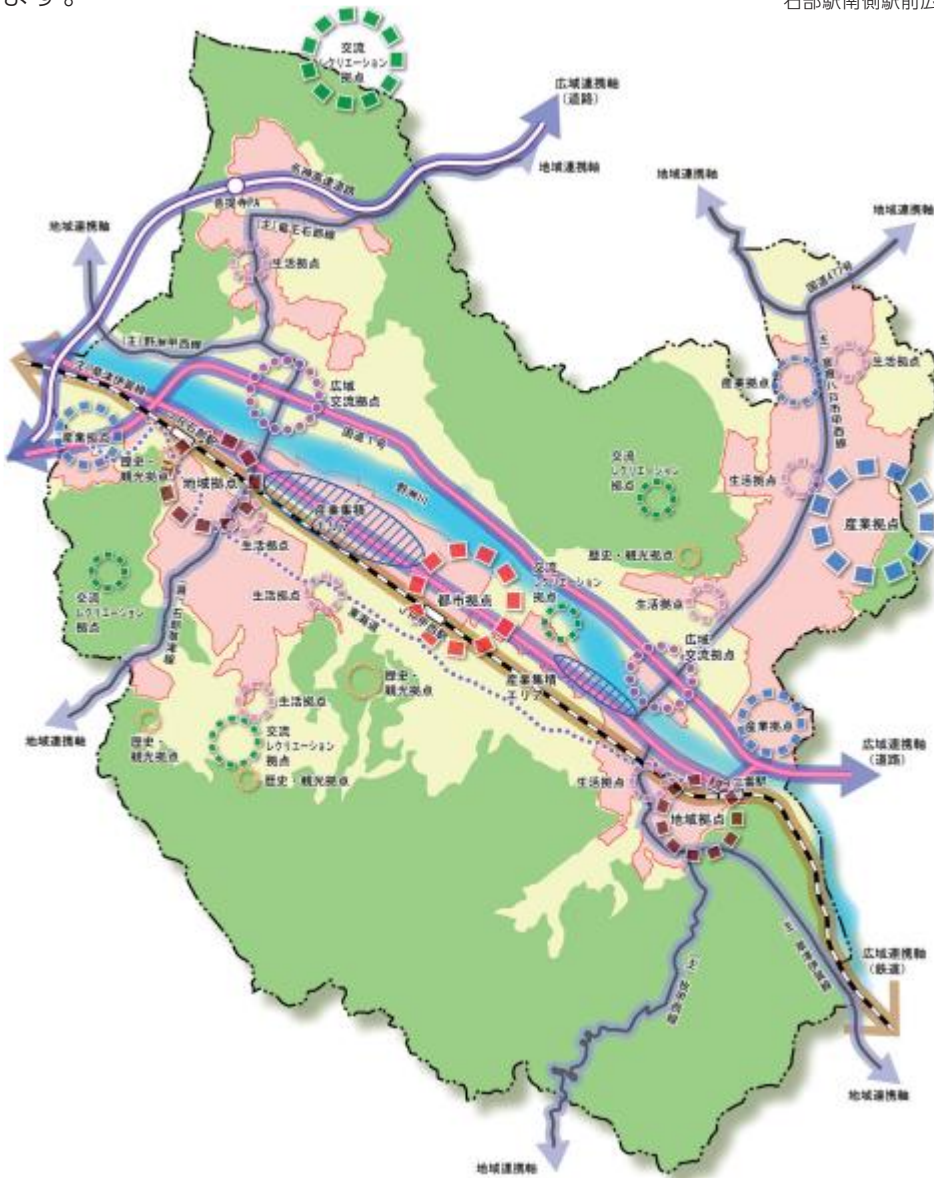
### ◆駅周辺のまちづくり

市内には東西方向に走るJR草津線に石部駅・甲西駅・三雲駅の3駅があります。効率的・効果的な都市経営を行っていくうえで、駅を中心としたまちづくりを進めることが重要です。また、駅周辺に多様な世代の人たちが集い、交流できる憩いの場を創出することが求められています。

駅周辺に魅力的な企業を誘致すると共に、住みたいと思える良質な住宅地の開発、既存商店街や沿道まちづくりの活性化、駅周辺に憩いの場を整備するなど3駅の周辺にさまざまな都市機能が集積するまちづくりを進めます。



石部駅南側駅前広場 完成図



都市計画の将来イメージ図



### ◆計画的な市街地・住環境整備

湖南省は、これまで、JR草津線の石部駅周辺や甲西駅周辺、三雲駅周辺をはじめ、岩根地区や菩提寺地区において計画的な市街地整備を進めてきました。今後は多様化・複雑化する市民の価値観や生活スタイルに合った質の高い市街地の整備・再編を進めていく必要があります。

このため、恵まれた自然環境を最大限に保全するためにも、多様な都市機能を適切に市街地へ誘導しつつ、まとまりのある市街地整備を進めていくことが大切です。

これまで整備してきた都市基盤の適切な維持管理や国道1号の4車線化をはじめとする道路の整備、質の高い住環境の整備や空き家対策、豊かな自然環境と調和する良好な景観の形成、野洲川をはじめとした河川改修整備を促進するなど、安全・安心で暮らしやすい環境を形成します。

## 政策テーマ3-3：企業誘致

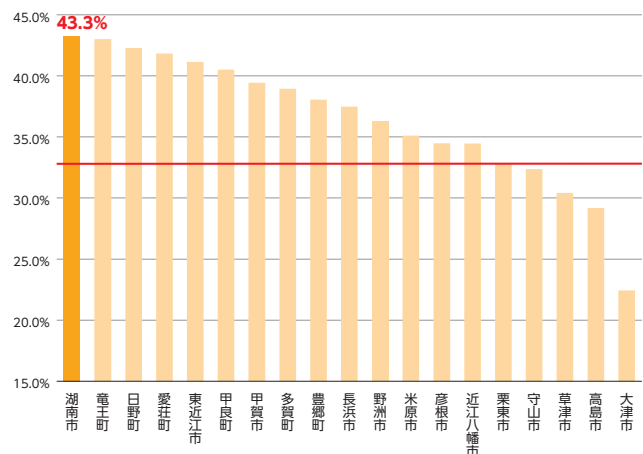
### ◆企業立地の促進

湖南省は、国道1号や名神高速道路などの広域的な交通環境に恵まれています。この交通利便性を生かして、湖南工業団地をはじめとした5箇所の工業団地には多くの企業が立地しており、湖南省は、第2次産業の就業者人口割合が県内で最も高い割合を占めるなど製造業を中心に発展しています。

市内の既存企業間の連携を図り、地域内の経済循環構造が形成されるよう協議や連携の場を創出します。中小企業における生産性向上の取組や異業種交流の支援、湖南省のものづくり産業を支える職人や経営者が持つ志や知識、人脈を駆使するなど、優れた人財の知見を活用した企業が進出したくなるまちづくりを進めます。

また、卓越した技術を有する市内企業などとの連携を進め、市内外の大人や子どもに湖南省の魅力を感じてもらえる工場見学会などの新たな体験プログラムを創出し、湖南省の産品と国の天然記念物「平松のウツクシマツ自生地」や「湖南三山」などの文化財、伝統行事などを織り交ぜた観光ツアーの実施を進めます。

就業者のうち第2次産業に従事する人の割合



出典：しが統計ハンドブック2025



### 政策テーマ3-4：産学官連携

#### ◆企業、大学、行政による連携機会の創出

湖南省では、2024年（令和6年）に健康状態の可視化や運動、食に強みを持つ大学および企業と共に協定を締結し、持続可能な健康のまちづくりを推進しています。

このような学術機関や民間事業者との連携の取組をさらに広げ、鉄道駅周辺の未利用地の活用による人が集まる場所づくりの社会実験を実施するなど、産学官が連携し、それぞれの強みを生かしたイノベーションを創出していきます。

#### ◆産官学金労言士によるまちづくりの推進

地方創生においては、産学官に加え金融機関や労働業界、マスコミ、弁護士や中小企業診断士などで構成される推進組織による、地域経済の活性化やイノベーション推進に取り組むことが重要とされています。

湖南省では、これまで農産物の加工・流通・販売までを行う6次産業化などで産学官の連携に取り組んできました。

市内の状況に精通する人財に加え、全国的な優良先進事例に関わった経験があり、成功を導くノウハウを有するプレイヤーなどを招致し、都市部からの産業や人の流れを生み出し、活気あるまちづくりを進めます。

## 2. まちづくりの 目標



### まちづくりの目標 4

## ほっとする暮らしを つくろう

～こどもが主役の、  
生涯健康で安心して暮らせるまちづくり～

2023年（令和5年）、社会全体でこどもと子育て世帯を支え、こどもたちが健やかに成長でき、こどもたちの最善の利益を第一に考える、こどもまんなか社会の実現をめざして、こども家庭庁が発足しました。

湖南省では、全国に誇る先導モデルである発達支援システム（チャレンジサポート）（関係機関が連携して乳幼児期から就労まで切れ目なく支援する障がい福祉の中核を担う仕組み）をはじめ、福祉サービスの各分野において、社会変化に即した支援ネットワークの構築と人材育成に注力してきました。

2024年（令和6年）には、妊産婦、子育て世帯、こどもへの一体的な相談支援をより強化するため、こども家庭センターを設置しました。デジタル化により利便性を高めることに加え、保健師などによる家庭訪問などきめ細かな支援を展開し、安心してこどもを産み育てられる環境づくりをめざしています。人と人が支えあってこどもや子育て世帯に寄り添う支援の輪は、湖南省の誇りです。

湖南省は、互いを尊重し合い、高齢者や障がいのある人を含むだれもが自分らしく生きられる地域共生社会の実現をめざしています。地域包括支援センターを中心に、民生委員・児童委員や地域支えあい推進員と連携し、地域包括ケアシステム（地域の実情に応じた医療・介護・予防・住まい・生活支援が確保される体制）の構築を進めています。さらに、支援が必要でもSOSのシグナルを発信することが難しい状況にある外国人市民にも大切な情報を確実に届けるため、医療・危機管理の分野ではデジタルツールの活用が求められています。

湖南省では、あらゆる社会や理念の中心をこどもとし、だれもが理想とする生き方を実現できるよう、支えあいながら歩みを進めます。10年後の未来に向け、支援を受ける人と支援の担い手となる人の相互理解を深める相談窓口の仕組みづくりをはじめ、重要度と市民ニーズを踏まえた施策に取り組んでいきます。

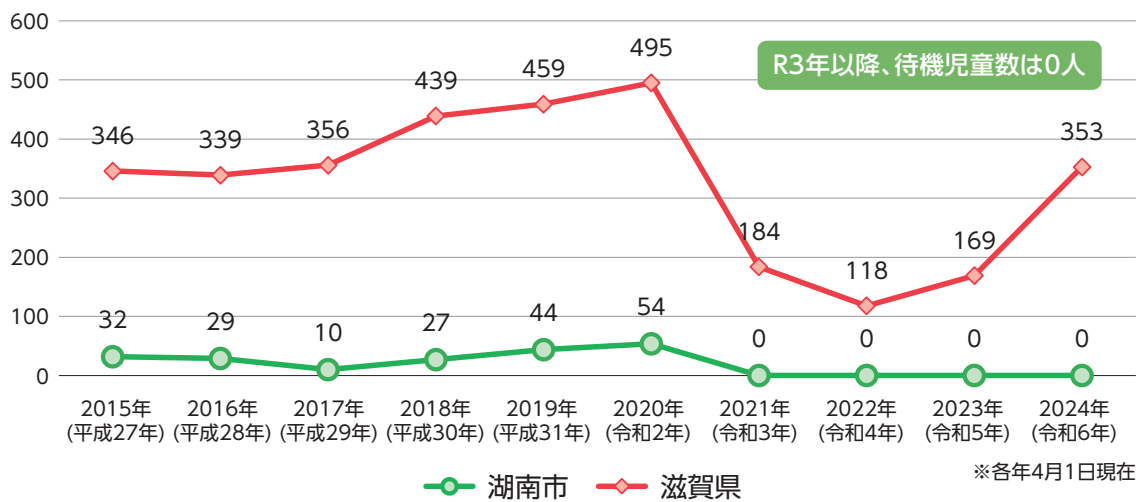
特に重視する政策として、①こどもまんなか、②健康福祉、③防災減災の3つを重要な政策テーマに据え、「安心して子育てできるまち」、「だれもが健康でいきいきとした楽しむ人生を送れる健康長寿のまち」、「発達支援システムが充実しているまち」、「防災減災を市民と共に進める災害に強いまち」をめざすまちの方向性に掲げ、複数の行政分野や部局を越えて連携し、住民の視点に立った行政運営を進めていきます。



## ●めざすまちの方向性

- ・安心して子育てできるまち
- ・だれもが健康でいきいきとした楽しむ人生を送れる健康長寿のまち
- ・発達支援システムが充実しているまち
- ・防災減災を市民と共に進める災害に強いまち

### ■待機児童数の推移



出典：滋賀県

「社会福祉の父」糸賀一雄らが創設した近江学園、全国に先駆けて構築した発達支援システム (チャレンジサポート) がある



離乳食を始めるにあたっての講話や実演を行うもぐもぐ教室



妊娠・出産・育児について学び、仲間づくりを目的として開催されているママパパ教室



## ●重要な政策テーマ

### 政策テーマ4-1：こどもまんなか

#### ◆子育て環境の充実

深刻な少子化や子育てしづらい社会環境、虐待や不登校の増加、ヤングケアラー（家族の介護や世話を日常的に担っている状況にあるこども）など、こどもおよび子育てに関して社会全体で取り組むべき多くの問題があります。これらは、いずれも放っておくことはできない早急に対応が必要な課題です。

保育事業者と連携し、保育環境の充実や保育の受け皿の適正な確保に取り組むほか、子育て世帯の経済的負担の軽減、さらには子育てしながら働きやすい就業環境づくりなど、地域社会全体でこどもの健やかな成長を見守り、安心してこどもを産み育てることができるまちをめざします。

また、地域のこどもが気軽に立ち寄れる場所で食事が提供されるなど、こどもの居場所づくりに取り組むことにより、支援が必要なこどもの早期発見と適切な支援につなぐ仕組みを構築します。

#### ◆教育環境の充実

社会の変化や技術の発展は、一層スピードを増しています。変化の激しいこれからの社会を生きるために、確かな学力、豊かな人間性、健康・体力をバランスよく育むことが大切です。

このため、家庭と地域と学校、行政が連携し、地域全体でこどもたちの生きる力を伸ばす体制づくりに取り組みます。

地域住民とのふれあいや地域の資源を生かした体験学習、課題解決型学習に取り組むなど、地域を深く理解し、愛着や誇りを育てます。



学校での音読の様子

こどものことばの豊かさを育むため、音読集であることばの宝石箱の暗唱・群唱や湖南市の小さな詩人たち事業で歌や短歌を作っています



### ◆子育て世代、若い世代への支援

雨天時のこどもの遊び場や保護者同士が交流する場、若者が気軽に立ち寄り過ごすことができる場の確保、子育てに関する相談窓口の充実に取り組むなど、憩いや交流がしやすく孤立が生まれないまちづくりを進めます。

また、事業者への働き方改革の促進により労働時間の短縮や勤労形態の多様化など、子育てと仕事が両立できる職場環境づくりを推進します。



遊び場や子育て情報の提供・相談ができる  
子育て支援センター

### ◆発達支援システム・特別支援教育の充実

湖南省が培ってきた独自の発達支援システム（チャレンジサポート）は、乳幼児期から就労まで「たて・よこ・ななめにすき間なく」をモットーに関係機関が連携した切れ目のない支援で、だれ一人取り残さない障がい福祉の中核を担う仕組みであり、社会の変化に応じて充実を図ることが重要です。

さまざまな発達特性についての理解促進を図ると共に、システムを支える人財の育成・充実に取り組めます。自律した地域生活が送れるよう関係機関が連携し障がいのあるなしに関わらず、自分らしく生きるためのチャレンジをサポートできるまちづくりを進めます。また、特別支援教育については、関係する機関が個別調整会議などを通じて連携を強化し、不登校の未然防止や不登校児童・生徒の居場所づくり、学びの支援を行うなど、すべてのこどもが学べるまちづくりを進めます。



## 政策テーマ4-2：健康福祉

### ◆高齢者福祉の充実

いつまでも住み慣れた地域で自分らしく暮らすことができるよう、地域包括支援センター（おおむね中学校区ごとに設置された高齢者の保健医療の向上や福祉の増進を包括的に支援する中核的な機関）を中心に、地域包括ケアシステム（地域の実情に応じた医療・介護・予防・住まい・生活支援が確保される体制）の充実を図り、協働による見守りや支援ができる地域の体制づくりを進めます。

元気で活躍できる機会・場が地域にある、生活支援を必要とする高齢者やその介護をする家族に対するサービスがあるなど、予防とサポートの総合的な取組を進めます。

### ◆障がいのある人への生活支援サービスの充実

湖南省では障がいのある人の自立的な生活を支えるため、必要なサービスの提供や相談支援を行っています。

障がいのある人を含めだれもがお互いに支えあいながら地域の中で自立した生活ができる環境を整えます。また、職場や学校などでそれぞれの能力を発揮し、自己実現が叶うあたたかい地域づくりやだれもが利用しやすい生活支援サービスの仕組みづくりを進めます。

### ◆健康づくりの推進

日本人の長寿化は世界最高水準にあり、湖南省でも着実に高齢化が進んでいます。いつまでも健やかに暮らし続けるため、市民一人ひとりの健康増進への意欲と関心を高めることが重要です。

運動実施率の向上をめざし、健康状態の可視化の仕組み・運動・食の分野で強みのある企業との連携のもと、運動への無関心を好奇心に変え、市民が楽しみながら自然に運動習慣と正しい食生活が身につくプロジェクトを展開するなど、元気な高齢者が活躍する地域社会を形成します。



からだ測定スポットでの健康相談会

### ◆医療環境の充実

湖南省では公立甲賀病院および公立診療所、民間医療機関が連携し地域の医療環境の充実に取り組んでいます。

在宅医療・在宅福祉など医療と介護の連携による地域包括ケアの充実を図ります。

健康に関する正しい情報提供や定期的な健康診断を受診しやすい環境づくり、疾病予防に関する取組や医療環境の充実を図ります。



### ◆持続可能な地域共生社会の実現

医療・福祉・介護などの需要はますます大きくなり、求められるサービスの質も高度化しています。湖南省では、4箇所の地域包括支援センターに保健師・社会福祉士・主任介護支援専門員の3職種を配置して機能を強化しています。職員の地域での活動が少しずつ認知され、各センターにおける相談件数は年々増えています。

湖南省版小規模多機能自治（自分たちのまちは自分たちでつくるの基本理念のもと7つの地域まちづくり協議会を基礎として4箇所の中学校区単位で地域課題の解決や地域の支えあいを支援する体制や連携）を支える中心的な相談機関である地域包括支援センターの人財の確保・育成に取り組むと共に、将来にわたって持続可能な地域共生社会（互いを尊重し合い、高齢者や障がいのある人を含むだれもが自分らしく生きることができるとする社会）の実現に取り組めます。

## 政策テーマ4-3：防災減災

### ◆危機管理体制の強化

気候変動によって土砂崩れや水災害が激甚化、頻発化する状況にあります。また、南海トラフ巨大地震はいつ起きてもおかしくない状況です。

災害の予防・減災対策、応急・復旧対策など、市民の暮らしと安全を守り協働の防災対策を推進するため、災害発生時に災害対策本部となる庁舎の防災性の確保や、地域の身近な指定避難場所の機能充実など危機管理体制を確立・強化します。

地域組織や避難時に配慮を必要とする人が利用する施設の管理者などに対して防災対策の周知徹底や支援を行い、災害発生時にはデジタルツールを用いて必要な情報を効果的に発信するなど、災害に強いまちづくりを進めます。



災害対策本部

## 2. まちづくりの 目標



### まちづくりの目標 5

## いきいきとした暮らしを つくろう

～市民文化を築き、育み、伝えるまちづくり～

社会経済情勢の変化と技術革新が著しい現代において、企業や社会が求める人材も常に変化しています。

湖南省では、2023年度（令和5年度）からリーディングDXスクールに指定され、市内小中学校がICT（情報や知識を収集・処理・発信し、さらにネットワークを通じて共有・活用する技術）を積極的に活用した教育を展開しています。また、地域まちづくりフォーラムでは、中学生・高校生が学校を代表して成果を発表するなど、地域と密接に関わり合いながら、学校ごとに特色のある学習に取り組んでいます。さらに、さまざまな事情で小中学校に十分通えなかった人や外国籍の人などの学び直したいという思いに応える場として、2025年度（令和7年度）から夜間学級を設置しています。

学びの場は学校だけでなく、地域全体で子どもたちの学びを支えています。地域と学校が力を合わせて運営するコミュニティスクールや、小中学生の学習を地域で見守るらくらく勉強会など、湖南省らしい地域ぐるみの教育が広がっています。こうした活動を通して、子どもたちはふるさとへの愛着を育み、地域とのつながりを自然に感じながら成長しています。

生涯学習の分野では、スポーツ指導者の育成や文化芸術の体験機会の充実、文化財の保存・継承など、地域や関係団体が連携・協働して取り組むテーマが数多くあります。特に、若い世代が社会に関わる機会を増やすことは、地域に新しい風を吹き込み、活動の広がりが期待できます。そのためには、公共団体や地域の企業と協力し、若い人たちが気軽に集い、交流し、情報を発信できるオープンスペースづくりが求められています。

湖南省では、一人ひとりが自分らしく夢を追いかけられる社会をめざし、そのため10年先の未来を見据え、多様な世代が気軽に集い、交流が生まれる人の輪が広がる居場所づくりなど、重要度と市民ニーズを踏まえた施策に取り組んでいきます。

特に重視する政策として、①地域協働、②生涯学習・生涯スポーツ、③文化創造の3つを重要な政策テーマに据え、「学校と地域が協働し豊かな人間性と地域への愛着を育むまち」、「地域に根付く歴史や文化が次の世代に継承されるまち」をめざすまちの方向性に掲げ、複数の行政分野や部局を越えて連携し、住民の視点に立った行政運営を進めていきます。



## ●めざすまちの方向性

- ・学校と地域が協働し豊かな人間性と地域への愛着を育むまち
- ・地域に根付く歴史や文化が次の世代に継承されるまち

### ■市町別国宝の指定件数（有形文化財）

	自治体名	件数
1	大津市	36
2	長浜市	6
3	湖南市	4
4	彦根市	2
5	甲賀市	2
6	野洲市	2
7	甲良町	2
8	竜王町	1
9	愛荘町	1
	合計	56

国宝数は県内3位  
 長壽寺本堂  
 常楽寺本堂、常楽寺三重塔  
 善水寺本堂

出典：滋賀県  
 2022年(令和4年6月29日)時点



長壽寺本堂



常楽寺本堂・常楽寺三重塔



善水寺本堂



小中学生の学習を地域で見守るらくらく勉強会



## ●重要な政策テーマ

### 政策テーマ5-1：地域協働

#### ◆若者の社会参画の促進

地域への愛着や誇りを醸成する意味でも、異なる年代とのふれあい、交流による青少年の健全育成、将来の地域づくりの担い手を確保・育成する意味でも若者が地域のまちづくり活動に参画することは重要です。

湖南市では、多様な主体との連携による地域活動の創出や未来の創造をめざすSDGs未来都市の推進の一環として、こなんSDGsカレッジを創設し、次世代を担う若者を中心に、多様なキーパーソンと共に、さまざまなまちづくり活動の体験やプロジェクトにチャレンジをしてきました。

主体的な学びの一環として地域づくり活動への参画の機会や場を設けるなど、若者が主体的に継続してまちづくりに参画できる仕組みづくりを進めます。



こなんSDGsカレッジ生が企画した市内4中学校の交流プロジェクト

#### ◆人の輪が広がる場づくり

湖南市では、6箇所のまちづくりセンターと4箇所のコミュニティセンターが各地域に配置され、地域のまちづくり活動などの拠点となっています。気軽に集い、思い思いに好きな活動をすることができたり、仲間と交流したり異なる世代の人とふれあうきっかけとなるような場所が求められています。

地域のコミュニティ施設や拠点的な公園内のスペースを有効活用し、便利で快適、魅力的な空間づくりに向けて民間事業者との連携も検討するなど、市内各所に人の輪が広がる場があるまちづくりを進めます。



## 政策テーマ5-2：生涯学習・生涯スポーツ

### ◆生涯学習環境の充実

湖南省では、市民が社会や地域の魅力、課題についての学びを深め、その力を発揮し、地域社会における多様な担い手になることをめざすための生涯学習の機会を提供すると共に、学びの成果を地域に生かせる仕組みの構築を図っています。

生涯学習活動参加のニーズは時代と共に内容が変化しながら高まっており、指導的役割を担う人財を確保・育成し、いつまでも学ぶ意欲にあふれる人がいきいきと輝くまちづくりを進めます。

### ◆教育プログラムの充実

湖南省では、デジタルツールを活用した教育に取り組むなど、これからの時代を生き抜く力を身につけるための特色のある教育を進めています。

生きる力を伸ばす特色ある教育プログラムの充実、指導者のスキルアップなど、子どもが意欲的に学びに取り組むまちづくりを進めます。

教育DX（デジタル技術を活用し、教育のあり方や教職員の業務を抜本的に変革する取組）に対応する機器の導入や校舎など施設の老朽化対策、安全確保など安心して学ぶことができる環境づくりを進めます。



ICT（情報や知識を収集・処理・発信し、さらにネットワークを通じて共有・活用する技術）を活用した教育



### ◆スポーツ環境・拠点の充実

余暇の充実や健康づくりへの関心から、運動やスポーツの重要性が高まっています。湖南省では、月1回のKONANスポーツデー（体育館開放事業）や湖南省のスポーツイベントの運営・実施に係る協力、スポーツ出前講座を実施しています。また、健康づくりへの関心の高まりから運動やスポーツの重要性が増す中、市内のスポーツ施設や学校体育施設には、老朽化した施設が複数あります。これらの施設の計画的な修繕、だれもが利用できるようにユニバーサルデザインの考え方に基づく改修、ニーズの変化に合わせた機能の充実を進めます。

全天候型遊び場施設（こどもが天候に左右されずに身体を使って遊ぶことができる施設）を求める市民の声への対応、近隣市町との広域連携による特色のある施設の相互利用にも取り組むなど、楽しく快適に運動・スポーツに取り組むことができる環境づくりを進めます。

### ◆読書環境の充実

蔵書の充実をはじめ、こどもが読書に親しむ機会や生涯学習機会の充実と情報提供など、市民が気軽に図書館を訪れ快適に利用してもらえるよう、利便性やサービスの向上に向けた検討を継続し、世代を問わず、心の健康にもつながる読書環境の充実を図ります。

## 政策テーマ5-3：文化創造

### ◆歴史文化遺産の保存・継承と活用

市内には、湖南三山をはじめとする有形・無形の文化財、歴史的な文化遺産が多数あります。地域の人口減少や高齢化などにより、一部でこれらの歴史文化遺産の適切な保存・継承が困難となる問題が生じています。

将来世代への責任として、これらの貴重な歴史文化遺産を適切に保存・継承していくためにも、湖南省の内外に広く価値を発信することが重要です。

歴史的建造物の周辺の景観形成や芸術文化活動との連携による魅力のPR、映像や調査などによる記録保存をはじめ、資料や調査成果の公開・活用などにより、先人が残した歴史文化を受け継ぎ、責任を持って未来へ引き継ぐまちづくりを進めます。

### ◆文化芸術活動の振興

2023年度（令和5年度）から文化ホールを湖南省が直接運営しており、多くの来場者に楽しんでいただいています。

文化ホールの長寿命化を図ると共に、来場者が快適に利用できる環境づくりを進めます。

また、まちのさまざまな場所に文化芸術活動の発表の場を設けることや、文化芸術に関わる指導者や若年層の発掘・育成の支援を行うなど、市民にとって身近で創造的な文化芸術を振興します。

## 2. まちづくりの 目標



### まちづくりの目標 6

## ひら 明日を拓く 仕組みをつくろう

～効率的・効果的な行財政システムと人づくり～

少子高齢化および人口減少の進行を前提とした効率的かつ効果的な行財政運営を実現するために、AI（人工知能）をはじめデジタル技術の最大活用はもはや不可欠となっています。コロナ禍をきっかけに、非接触型サービスやリモートでのコミュニケーションを支えるデジタル技術の社会実装が進みました。これにより、私たちの生活、企業活動、行政サービスのあらゆる面で、デジタル化の推進による効率化と利便性の向上への期待が高まっています。

こうした中、市民が市政情報を入手する主な手段は、今もなお広報こなんや自治会・町内会の回覧板となっています。電子申請サービスでは諸証明の利用が多く見られる一方で、電子申請サービスができることを知らない、または方法が分からない市民もいます。このため、電子申請サービスなどの周知を図ると共に、デジタル技術で市民サービス向上と事務の効率化を推進し、得られた成果を職員の能力開発や、より丁寧な対応が求められる業務に振り分けることで、行政サービスの質を向上させることが求められます。

また、国道1号の4車線化やJR草津線の複線化、広域幹線道路整備など、広域的な諸課題への対応には、これらの課題を共有する周辺自治体との連携が不可欠です。現在、県内8市による自治体クラウドシステム（複数の自治体が行政情報を外部のデータセンターで共同利用し、運用管理するシステム）の共同利用が進んでおり、今後も課題に応じ最適な広域枠組みを検討し、連携を一層強固にしていきます。

このようにして、湖南省では、一人ひとりが自分らしい生き方を実現し、10年後の未来を見据えた社会を共に築いていくため、競争に耐えうる行政システムと質の高い人材育成など、重要度と市民ニーズを踏まえた施策に取り組んでいきます。

特に重視する政策として、①行財政改革、②広域行政を重要な政策テーマとして、「デジタル技術の導入による行政事務の効率化や施設の最適化、利便性が高くきめ細かな行政サービスが提供されるまち」をめざすまちの方向性に掲げ、複数の行政分野や部局を越えて連携し、住民の視点に立った行政運営を進めていきます。



## ●めざすまちの方向性

- ・デジタル技術の導入による行政事務の効率化や施設の最適化、利便性が高くきめ細かな行政サービスが提供されるまち

## ●重要な政策テーマ

### 政策テーマ6-1：行財政改革

#### ◆自治体DXの推進

行政サービスにおいて以前から電子申請の拡充を図るなどデジタル化の取組を進めてきましたが、コロナ禍を経て、社会の広範囲においてデジタル技術を活用した非接触・非対面のサービスが浸透し、今日ではAI（人工知能）が急速に進展しています。

電子申請の一層の拡充やキャッシュレス対応など、窓口サービスの改革とその周知により市民の利便性向上と業務の効率化を一体的に進めます。

市民が優先的なデジタル化推進を求めている医療の充実および危機管理体制の整備に対応すると共に、デジタル技術を活用して、公共施設の利便性および稼働率の向上と施設管理の効率化を両立するなど、市民満足度の高い行政サービスのデジタル化を進めます。

#### ◆財政の健全化

総人口や生産年齢人口（15～64歳）の減少などにより歳入の根幹である市税収入にも影響を及ぼす可能性があります。

効率化による経費の削減、国・県補助金の確保のほか、企業版ふるさと納税や市有財産を活用した新たな財源の確保にも取り組み、歳入と歳出のバランスが取れた財政が健全で持続可能なまちづくりを進めます。

### 政策テーマ6-2：広域行政

#### ◆近隣市町との連携

県内8市で自治体クラウドシステム（複数の自治体が行政情報を外部のデータセンターで共同利用し、運用管理するシステム）の共同調達を行い費用の大幅な削減を実現しています。また、消防、衛生センター、公立甲賀病院など甲賀市との連携により効率的な行政サービスの提供を行っています。

JR草津線複線化や国道1号4車線化、野洲川の河川改修など、隣接する甲賀市や栗東市との連携により広域的な課題の解決に取り組んでいます。

加えて、野洲市および竜王町とは、広域的な交通ネットワークの充実など共通する課



## 2. まちづくりの目標

---

題の解決に取り組んでいます。

人口減少や社会経済情勢の変化に伴うさまざまな行政課題に対し、公共交通や防災、人財育成などの広域的に対応すべきものについて最適な枠組みを検討し、広域的な課題を解決できるまちづくりを進めます。